



福祉の貧しい国家

ちいろば会理事 富田忠一

ちいろば園が開園した 1989 年、「日常生活における援助を行うことにより、知的障害者の自立生活を助長することを目的」としてグループホーム制度が創設されました。グループホームが制度化されるプロセスにおいてグループホームは施設ではなく、地域生活における「生活の場」であることが確認され、知的障害をもつ人たちの地域生活の拠点として大きな期待が寄せられました。

制度化された当初、「グループホームで暮らせるのは、身近自立のできた軽度の障害者だけ」とささやかれ利用者は低迷していました。しかし、重度加算等の報酬改定や法改正により障害種別の壁も取り払われ、近年では障害種別、障害の重軽を問わず、障害者の地域生活に欠かすことのできない一つのライフスタイルとなりました。利用者数も 2019 年には入所施設の利用者 13 万人を上回り 14 万人に達しています。ちいろば会でも現在、6 ヶ所で 24 人の利用者がグループホームで暮らしています。未だ、各ご家庭から通われている利用者の方のみなさんの多くも「将来はグループホームで暮らしたい」と考えておられます。利用者のみなさんの地域生活を充実させるために、今後も様々なタイプのグループホームを増やしていきたいと考えています。

ところが、今、厚生労働省では現状のグループホーム制度の再編を行うべく、着々と検討を進めているとの情報が寄せられました。7 人の学者と 4 名の厚労省の官僚、コンサルタント会社だけの議論で、『障害者支援のあり方に関する調査研究 グループホーム、地域生活支援の在り方事業報告書(令和 3 年 3 月)』がまとめられたとのことです。そこに記されているグループホームの現状の課題には、同意できる内容もあり大きな異議は見当りません。しかし、その課題に対する改正案にはどれもこれも、賛同どころか、呆れ果てるような内容が羅列されています。「障害支援区分の低い人々には利用期限を定める」、「小規模なグループホームは閉鎖的になりがちなので大規模化する」、「家賃補助はグループホームに滞留する原因のひとつなので家賃補助を見直す」、「効率的な支援体制を構築するため外部のヘルパー利用を禁止する」など、私の解釈による乱暴な表現ではありますが、改正案はどれもこれも、グループホームへの予算削減のためのそろばん勘定ばかりで、本質的な課題解決とは程遠い内容ばかりです。

「どこで、だれと暮らすか」憲法に保障された基本的な権利にも抵触するような変更を結論ありきの官僚主導の検討会の議論で当事者の意見も聴取せずに決定してしまおうとするこの国の現状が、この国の福祉の貧しさを物語っています。ちいろば園が設立して 32 年が経過し、この間、障害者がその人権を尊重され、必要な支援や合理的配慮を受けながら地域で暮らす権利を有することを明示した理念法は整備されました。長年の障害者運動と地域生活の実践によって勝ち取った、その理念をないがしろにするような法改正を絶対に許すことはできません。

～ グループホームから一人暮らしに向けて ～

グループホーム 主任 米田 守

現在、ちいろば会のグループホームには一人暮らしをするためにグループホームから退居を検討されている方がおられます。

以前から「一人暮らしをしてみたい」という思いはあったようですが、なかなか機会がありませんでした。グループホームに入居されて 12 年、高等養護学校を卒業されると同時に生活の場をグループホームに移され、現在に至るまで一般就労で働きながらグループホームでの共同生活をされてきました。職場へは毎日遅刻することなく通勤し、仕事に励み、人間関係も良好で、年に数回は上司や同僚と外出するなど職場の人たちにも支えられながら現在もまじめに働いておられます。グループホーム利用者の中でも居住年数は長く、職員よりもグループホームのことをよく知っている存在と言っても過言ではありません。今回、本人とその後見人、相談員とも話し合い、ひとり暮らしに向けて動き出すことになりました。グループホームから近い賃貸マンションへも一度見学に行き、本人にとっても希望した一人暮らしが現実味を帯びつつ、不安もあると思いますが年内を目途に一人暮らしに向けひとつひとつ一緒に準備を進めていく予定です。

昨今、国はグループホームの制度を再編して「通過型」のグループにホームに（グループホームから一人暮らしに移行させることを目的とした）変えようとする動きがみられます。そのような制度が成立すればこのままグループホームに住み続けたい人であろうともグループホームから退居しなければならない事態になってしまいます。これまでのグループホームの制度であっても一人暮らしを望む人がいれば、前述であるようにいくらでも一人暮らしは可能なのです。ただ単に 3 年間といった期間を設けて一人暮らしに移行させようとする国の考え方は浅はかではありません。

ちいろば会の利用者には将来いろいろな暮らしを望む方々がおられます。将来グループホームで暮らしたい方、将来一人暮らしを望んでおられる方、サテライト型のグループホームで生活したい方、このままグループホームで暮らしつづけていきたい方など利用者の方々が望む地域での暮らしはいろいろあります。

こうした利用者のさまざまなニーズに応えられる

ような組織でありつづけなければなりません。

このようなあたりまえなことを支援していくこと

について、私たちはいつまで行政にふりまわされなければならないのでしょうか。



「聞く力」「言う力」

ちいろば園職員 佐竹 佳子

この国の第 100 代内閣総理大臣として岸田氏が自民党総裁選を制して国会で指名されました。その選挙の最中に岸田氏が口にしていた「私は人の話に耳を傾けることが特技です」という言葉について、なんて難しいことを特技だと言いつけるのだろうかと思心してしまいました。

というのも、「聞く力」「言う力」に関して私自身、とても得意と言えるものではなく、日々の利用者さんとのやり取りの中でも反省することしきりだからです。

例えば、尋ねられたことに対して曖昧な返答をする、質問に対する答えを宙ぶらりんのままにしておく。それは利用者さんにとって不安の種となってしまいます。不安の種を少なくするためにも、ちいろば園で共に働く先輩の言葉の使い方を学ぶ、会議の話し合いで出たことを糧に、言葉遣いを変えてゆく。コミュニケーションの基礎であるが故に長年身についたものを変えるのはとても難しいですが、そこを変えてゆくのが利用者さんにとってより安心できる支援だと思っています。

言葉数が多くて混乱させがちなのを「シンプルに」、曖昧な指示ではなく「具体的に」「次に何をするかひとつずつ」。それを身振りや自分の立ち位置まで含めて考える。課題の連続ですが、日々やりがいを感じています。

そして、この仕事につき障がい者福祉の歴史を学ぶまで考えてもいなかったことですが、障がい者福祉の歴史は、よりよい支援体制を求めて障がい当事者が声を上げ、その声を法律をつくる場に届けることにより、法律も支援体制もよりよく整っていったということです。

先日、グループホームに関する体制が大きく変わることに対して、このまま黙ってはいはよりよい支援体制にはならないとちいろば園でも署名活動をしました。

真実、「人の話に耳を傾けること」が特技である者が率いるのであれば、この国の政治は、きっとその声に応えてくれるはず、また、障がい当事者と共に関わりある全ての者が、届くまで声を上げ続けることも大事だと思っています。



そうじ
「掃除について」

えんしよくいん たまの こうじろう
ちいろば園職員 玉野 康二郎

ちいろば園では作業終了後に園内をみんなで掃除します。使った場所や部屋を自分達の手できれいにすることで、自己肯定感をはぐくみ、集団の中での役割を理解し行動に移す。または、まわりとの比較で自分のあり方をみつめる。ことが目的だと思うのですが、困ったことに、相手は目に見えにくい小さいほこりやちり、テーブルにうっすらと付いた汚れだったりします。また明確なゴールがない点も、掃除の難しいところです。

「部屋の掃き掃除」「テーブルの拭き掃除」をしましょう。とだけ伝えと、ほうきを手にいたりきたりを繰り返すだけ、雑巾でテーブルをふわふわとなでるだけ、という結果になってしまうこともあります。

ゆえに支援者は様々な工夫を施したり、声かけを行ったりしています。
机全体を拭くことを習慣化する為に、赤の印と青の印（画像①）をテーブルの端に貼りました。
利用者さんに、赤と青を順番に雑巾でタッチするよう声かけを行っています。

以前効果的だったので再度行うことにしたのが画像②です。掃いたゴミを集める場所を明確化する為に、床に黒のテープで囲いをしています。

声かけでは、Aさん、Kさんに対して「いち、に、さん、し」と一緒に数を数えながら拭き掃除をしています。リズムカルに楽しみながら拭き掃除を行っています。

諦めず声かけを行ったことで変わったこともあります。一人で掃除機を取りに行こうとしなかったOさんに、毎回「一人でいけます」と声をかけ続けた結果、掃除の時間になると、自主的に一人で掃除機を持ってこられるようになりました。

もちろん課題もあります。Kさんはずっと拭き掃除、Sさんはずっと掃き掃除と役割が固定化してきてしまっています。出来る（得意な）掃除の種類を増やす必要があります。また掃除の質をもっと、もっと上げなければいけないと思います。やるべきことは沢山あります。これからも、みんなと一緒に掃除に対し、真剣に向き合っていきたいです。



がそう
画像①



がそう
画像②

グループホームの休みの日の過ごし方

グループホーム職員 大野美子

エンゼルハウスの休みの日は、いつもよりも 30 分遅い 7 時 30 分起床するところから始まります。

普段出来ない居室の掃除は、自身で行ない掃除機もかけられます。

衣類の片付け、布団の入れ替え、シーツの交換も一緒に行なっています。

食品製菓の利用者さんは、コックスーツにアイロンをかけ、きれいに

畳んで用意をされます。

昼食の準備では、鍋とタイマーを用意され、

調理のためのツールを見て各自で作られる即席

ラーメンは、自分で作る事で、より一層美味しい

ようです。



おやつは、みんなで一緒にホットケーキを作ったり、バレンタインデーでは、手作りのチョコレートを作り、ラッピングをして、お家に持ち帰られたり、ちいろば園の方にプレゼントをされたりしています。利用者のお誕生日には、ケーキとジュースでお祝いします。



コロナが減少した事で、始めた事は散歩です。住宅の中を一緒に並び、ご近所の方に会う度に、自然にされる挨拶。健康のために始めた事ですが、地域の方々と触れたり、季節の変わり目を感じてもらえたらいいです。

コロナ禍以前のように、他のグループホームの方々と一緒にバーベキューや、ハイキングなどの行事が再開できる日が楽しみです。



— ぼくも わたしも みんなが主役 —

- 質問① 名前と年齢は？
 質問② 家族にまつわるエピソードは？
 質問③ 学校時代のエピソードは？
 質問④ 最近気になっていること、興味があることは？

- ① 小倉奈々です。35歳です。
 ② 今は両親と暮らしています。お正月とお盆に兄家族・叔父と一緒に墓参りをしてから、かに道楽に食事に行くのが嬉しいです。たまに何でもない時にも会いに来てくれます。ゆあちゃん(4才)はかわいいです。
 ③ 上牧小学校、二階堂養護学校中等部、高等部です。文化祭にピーターパンの劇をして、ティンカーベルの役をしました。みんなに魔法の粉をかけて飛べるようにしたのが楽しかったです。
 つらかったのは、小学校3年生の時にそれまで仲良くしていた女の子達からいじめを受けたことです。その時は夜中によく泣いていました。身長も体重も増えなかったです。お母さんが気づいて学校に相談し、対策を立ててくれたので、4年生になって身長も体重も大きく増えました。
 ④ 最近気になっているのは、コロナが流行ってずっとマスクをしなければならぬことです。しんどいです。早くマスクをせずに自由に遊園地や観光に行きたいです。お花見をしてお弁当を食べたいです。ちいろば園の旅行も行きたいです。



- ② 横山文吾39歳です
 ② 週末はお母さんと暮らしています。平日はグループホーム「にぬふあ星」で暮らしています。2007年にお父さんが亡くなって2010年からグループホームを利用しています。家に帰った日はお母さんと買い物に行きます。
 ③ 奈良教育大学付属中学時代が楽しかったです。卒業式のことをよく覚えています。
 二階堂養護学校卒業後1年間職場適応訓練を受けました。僕なりに頑張りましたが、採用まではいかず、今はちいろば園に通っています。
 ④ 相撲が好きです。気になっているのは、最近ヘルパーと出かけていないことです。映画とか銭湯に行ったことあるけど、今は行っていません。電車に乗って出かけたいです。

ほうじんしよくいんけんしゅうほうこく
法人職員研修報告

ざいにちちようせんじんさべつ まな
～在日朝鮮人差別に学ぶⅢ～



こんかい けんしゅう たぶんかきようせい なら しむきよくちよう たに としみつし
今回の研修では、「多文化共生フォーラム奈良」事務局 長 谷 敏光氏を
こうし まね ざいにち にほんじん ちんだい だい
講師にお招きして、「在日をともに生きる」～日本人の問題として～ と題し
てお話を伺いました。

えんしよくいん ひでた ま き
ちいしば園職員 秀田真希

こんかい ざいにち けんしゅう う じぶんじしん む ち く
今回の在日コリアンの研修を受けて、いかに自分自身が無知で暮らしてきたのかを改めて考
えられました。どの様にして、日本にきたのか、なぜ帰れない人たちが居たのか。そしてその人たちが日本
でどのような想いで暮らし生きてきたのか。そして、今この時も、たくさんの人達がたくさんの想い
を抱えながら日本で暮らしているのか。

しょうじき けんしゅう な かんが こと な わたし く つづ おも
正直この研修が無ければ、考える事無く私は、暮らし続けていたと思います。
けんしゅう とし えいぞう み こうこうせい おとこ こ ざいにち がっこう きょういく こども
研修の時に映像で見た高校生の男の子が「在日についてもっと学校で教育をしてほしい。子供た
ちを守って。」という言葉がとても印象的でした。本当にその通りだな、と思いました。

わたし む ち にんげん し し まわ かんが
私のように無知な人間は、わからないまま、知らないままで、知らず知らずのうちに、周りの考
えに流されたり、自分に関係ないの事。と、知ろうともせず他人の様に過ぎていくんだらうと思
いました。

どんな差別も同じで、知らないこと、興味のない事、自分には関係ないや。と言う考えで、周りの考
えや、一方的な偏見の考えに流されるって、なんて怖い事なんだろうと思います。

自分だけでなく、差別を受ける人にも大切な家族がいて、大切な人がいることを忘れないように。そ
の為にはもっとたくさんの人に、知る機会が増えていけばいいなと思います。

えんしよくいん いのうえひろき
ちいしば園職員 井上啓樹

こんかい ふく さんかい ざいにちちようせんじんさべつ まな けい い にほん き
今回を含め三回にわたり在日朝鮮人差別について学んだ。どのような経緯で日本にきたのかという
家族の歴史や、自分がどの国籍を選択するかという生き方に至るまでひとりひとり違う「在日」の形
があることがわかった。この一つの事実だけでも「在日」であることを理由に攻撃対象とするヘイト
スピーチに大義は無いと私は思う。個人としての意見だが「ヘイトスピーチ解消法」について表
現の自由の在り方を含め罰則規定の見直し等の議論が必要だと考える。

また、今回の研修で講師の方が在日外国人の学生を支援する上での基本的な方針として「本名を
呼び名乗る」ことを大切にしていると仰った。前回研修で観たドキュメンタリー映画『蒼のシン
フォニー』で在日朝鮮人の高校生が祖国に赴いた際、本名で名乗り本名で呼ばれることが嬉しいと
語っていたことと重なりとても印象に残った。

何にも縛られることなく「本名」で生活できる社会のために、私ができる行動は何か？まずは
知っていくこと。今回の研修を通じて関心を持った外国人技能実習制度のことや外国にルーツをも
つ子どもについて継続して学んでいきたい。次に選択すること。人権意識の低い会社の製品は手
取らない等、日常生活の中ですぐにできることから「選択」し行動を積み重ねていこうと思う。

★ 後援会費・ちいろばだより年間購読料 (2021年8月1日～2021年9月30日)
ご協力ありがとうございました。

篠原範子、畑三千代、吉田智弥、田土智子、西村周也、佐竹佳子、備後直子

以上 敬称は略させていただきます

※ちいろばだより年間購読料は、500円／年です。

～グループホーム再編に反対する緊急署名のお願い～

グループホームは、知的障害をもつ人たちが地域で暮らすために非常に重要な役割を担っています。

親と離れた暮らしを同じ障害をもつなかまと共に暮らす中から、自分らしい地域の暮らしを創造していきます。グループホームの暮らしから一人暮らしへ移行する人、素敵なパートナーとの暮らしに移行する人もいます。もちろん、グループホームを最後の住まいとしてそこで暮らし続ける人たちがたくさんいます。そんなグループホームの制度が今、官僚主導による制度改革で再編されようとしています。

改正案では、①障害程度の軽い人たちは、3年でグループホームを出なければならなくなる ②10名を超す大規模なグループホームになってしまう。 ③グループホームではヘルパーが使いにくくなる? など グループホームで暮らす人たちにとっては改悪でしかありません。当事者の意見も聞かず、早急な改正を食い止めるための署名にご協力ください。

※署名用紙は、ちいろば会のホームページからダウンロードできます。メール・FAX・郵送で緊急行動ネットワーク事務局までご返送ください。

※電子署名サイト change.org 「<https://www.change.org/gh-kinkyukodo>」
からもご賛同をお願いします。



KSKS ちいろばだより

編集人／ ちいろば会後援会

年 6 回 頒価 50 円

連絡先／ 奈良県生駒郡三郷町勢野北 5-6-14

TEL : 0745-72-1923 FAX : 0745-72-1924

発行人／ 関西障害者定期刊行物協会

大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4 F

二〇二〇年十二月十二日

第三種郵便物承認

毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日)発行